Book Reviews

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-08-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055272

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

新刊紹介

○ 馬場多久男：**葉でわかる樹木　625種の検索**　A5判，396頁．1999年12月10日．信濃毎日新聞社．3,200円．

木の葉にしろ果実にしろそれだけを取り上げた場合，余程の特徴がなければそれが何の木のものかを言い当てることはなかなかむずかしい。本書は先に「冬芽でわかる落葉樹」（信濃毎日新聞社）を出版された樹木のエキスパートである著者が，今度は日本の自生および栽培の625種の木の葉に挑戦を試みた力作である。

本書は前半の検索編と後半の解説編からなる。検索編ではまず総検索表によって4グループに分け，続いてグループごとの検索表I-IVが示される。これら4つの検索表では，縦軸には葉の習性やつき方，横軸には葉の形の違いによる欄があり，縦横の欄が交叉する欄に該当する植物群の掲載された頁が記されている。ここには，それぞれの種の葉の表裏全形がカラー写真で示されているので，その中から目指す植物を探し当てるという方式である。たとえば，縦の欄の対生で常緑，横の欄の全縁で3行脈の組み合わせでは，ナギ・ニッケイなど12種が掲載されているので，結論は手元の葉をこれら12種の写真と比べて出すのである。一定の絞り込まれた植物群から目指す植物を探し出すというスタイルは，保育社の「検索入門」シリーズで採用されているが，本書の特色は縦横の欄の組み合わせというところにある。だから，空欄をみればそのような形質の組み合わせをもつ葉はないことが逆にわかってくる。検索編で結論が出なければ，解説編に進んでさらに詳しく調べるという手順になる。ここでは，種ごとに葉脚部分の等倍の表裏写真，裏面葉脚の4倍拡大写真，花と実のついた小枝の2枚の写真とともに一般的な解説記事もある。実に，至れり尽くせりの検索図鑑ということができる。ただ，葉脚の写真以外は，判型のこともあって小さく扱われていていささか分かりにくくなっているのが惜しい。試みに，私も落ち葉をいくつか拾ってきて検索してみたところ，たちどころに正解をえた。現場で経験をつまれた著者ならではの図鑑として，巷間に広く推奨したい。　（清水建美）

○ 西田誠（編）：進化生物学研究所・東京農業大学農業資料室共同企画　**裸子植物のあゆみ　ゴンドワナの記憶をひもとく**　A5判変型，116頁．1999年3月10日．信山社．4,500円．

本書は（財）進化生物学研究所の協力のもと，東京農業大学農業資料室が平成10年6月から翌11年4月までに行った同題の企画展示の資料を基に進化生研ライブラリーの4冊目としてまとめたものである。目次をみると「胞子でふえる植物，たねでふえる植物」「裸子植物とは」で始まる11章からなるが，主体は「針葉樹の仲間」―「グネツムの仲間」の4章（52頁）および「誕生の物語り－裸子植物の起源と進化」（45頁）にある。前者では現生の裸子植物15科86属のうち15科41属が取り上げられて，それぞれいくつかずつの種がカラー写真で示され，後者ではデボン紀前期のリニアから始まり日本の白亜紀の被子植物に至るまで化石の写真やイラストをふんだんに用いて裸子植物のあゆみが語られている。主題の解説は，一般の方々にも裸子植物に関心をもって頂けるようにとデス調でやさしく記されていて親しみやすい。（写真やイラストの説明は前者ではデアル調，後者ではデス調）同時に英文の解説やキャプションもつけられていて大いに参考になるが，こちらはあったりなかったりするのは何故だろうか。最後に掲載されている現生裸子植物の属とその分布［一覧］は実にありがたい資料である。

いずれにしろ現生および化石の裸子植物，初期の被子植物の化石の写真がこれほど多くみられる手頃な本はほかにはないだろう。私は来期の講義にはぜひともこれらの写真を使わせて頂きたいと思っている。ついでながら，23頁の偽葉は葉状枝，35頁の写真は*Fitzroya*，43頁のキャプションは王滝村とすべきところである。

（清水建美）

○ 中西弘樹：**漂着物学入門**　新書判，211頁．1999年11月17日．平凡社．680円．

この本で，9年前の「海流の贈り物　漂着物の生態学」（平凡社1990年刊）の出版後に得られた情報を中心に，漂着物やそれから発展した植物の海流散布や動物の分散の問題，さらに漂着の場である海岸について，その自然，破壊，整備の問題を解説した，と著者はいう。

本書は，海岸を訪ねて，漂着物から科学へ，漂着物と人間，植物の漂着，動物の漂着，漂着物と海洋汚染，日本の海岸とその自然，破壊される海岸とその整備，の8章からなっている。著者は永年海岸植生を研究してきただけに，第4章の植物の漂着は面白い。ビーチコーミングを面白いと思われる方には，漂着物に関して総合的に書かれている本であるので，本書をお勧めしたい。　（鳴橋直弘）

○ 金　泰正：**韓国の野生花**（Colored wild flowers of Korea）　A5変形判，612頁．1998年9月15日．教

学社．35,000 ウォン．

本書は 1993 年発刊の韓国の野生植物のカラー写真による図鑑の第 8 刷である。1 頁に 1 から 4 枚のカラー写真があり，植物としては総計 657 分類群が載っている。図鑑の前半部はカラー写真で，後半部にはそれぞれの植物の特徴が書かれている。学名以外は韓国語である。564～589 頁には形態用語が図示されている。著者の金泰正は 1942 年生まれで，アメリカのロスアンゼルス国際大学で理学博士号を取得し，数度にわたり韓国の学術調査をおこない，現在，韓国野生花研究所に勤務している。日本との共通種も多く，楽しめる本である。 (鳴橋直弘)

○ 金　泰旭：**韓国の樹木** (The woody plants of Korea in color)　A 5 変形判，643 頁，1998 年 9 月 15 日，教学社．35,000 ウォン．

本書は 1994 年発刊の韓国の木本植物のカラー写真による図鑑の第 6 刷である。1 頁に 1 から 4 枚のカラー写真とその植物の解説がある。植物としては総計 513 種が載っている。植物にはそれぞれ韓国名，学名，英名，漢名，日本名（ひらがな）と簡単な解説がある。610～616 頁には形態用語がカラーで図示されている。

著者の金泰旭はソウル大学農科大学林学科卒，カナダのトロント大学林学科で学び，ソウル大学農生学部附属演習林長をへて，同大樹木園園芸山林資源学科長である。

この図鑑は，韓国日報社の第 35 回韓国出版文化賞，および韓国林学会の 1995 年度最優秀著述賞を受けている。他の植物のところは知らないが，バラ科キイチゴ属のナワシロイチゴ，エビガライチゴ，ハチジョウイチゴ，カジイチゴでは，種名と写真が一致していない。 (鳴橋直弘)